スピリット 常中魂

平成２８年　９月９日　NO.３１
〒311-1114　水戸市塩崎町1016
TEL029-269-2116
FAX029-269 -3160
Mail　tunezumi-j@magokoro.ed.jp

【ホームページで，カラー版が見られます】

体育祭を終えて

生徒会長　田村　秋汰

「よし、すごく良くできた。」入場行進のとき、そう思いました。今までの体育祭の様子とは違うと感じました。明らかに、今までの体育祭の思いのまま開会式が始まり、聴く全生徒の態度、そして、本当に常中魂が根付いてきたことに気付きました。学校全体が、本気になって創り上げてきた「魂」です。簡単にできたものではありません。佐藤実行委員長や各団団長の下、みんなで努力した結果です。本当に熱く、爽やかな体育祭になりました。とてもうれしく思います。

常中タイフーンの前の競技の棒引きで、一組が勝利して流れをつかんでいました。しかし、常中タイフーンは、練習でもあまり成功していなくて、皆、緊張していました。さらに競技の前に、一人のクラスメイトが倒れてしまうハプニングが起きました。しかし、このとき一組は、心を一つにすることができました。倒れた友に良い報告をしよう、全員がそう思ったことで、見事一組は一位になることができました。このとき感じた人の心の力を、僕は忘れないようにします。

このように大きな成果をあげ、体育祭は終わりました。余韻に浸っていたいところですが、今日から切り替えです。三年生は、受験も迫っています。せっかく創り上げた常中の「魂」を無駄にせず、これからも前進し続けます。

赤団団長　高繁　幸生

自分たち３年生は，この体育祭が最後の体育祭になりました。始まるまでは，とても長く感じたのですが，始まってしまえばすぐに終わってしまいました。少し悲しい気持ちですが，とても楽しい体育祭でした。

自分は，赤団の団長として，皆をまとめられるのか，少し心配でしたが，副団長や各学年のクラス団長に支えられ，皆をまとめることができました。この赤団，そして3年1組で戦い抜いた1日は，自分にとって宝物です。

また周りの皆にも感謝しています。常澄中学校の最後の学年が３年１組というクラス，メンバー，担任の三上先生であったこと，最高です。

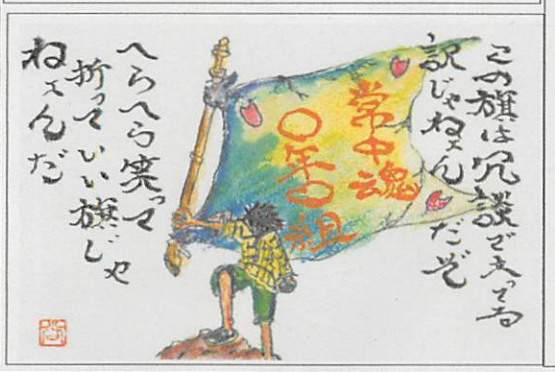
これから，合唱祭，持久走大会などがありますが，このクラスで最後まで戦い抜いていきたいと思います。

自分は，体育祭で一つだけ悔いがあります。それは団選抜リレーでの事です。負けが確定していたからといって，自分は最後までがむしゃらになって走りきれませんでした。足を引きずっていてもバトンを届けてくれた１年生に教えられました。次は逃げません。

自分の宝物になる最高の体育祭でした。

「勝つ」ことほ、すばらしい。人生最高の喜びの一つだ。
しかし、人として学ぶには、「勝つ」ことと同等、あるいはそれ以上に価値のある「ことがある。
それは、一生懸命に努力して、「負け」を経験することだ。

負けは、口惜しい。
精神的にも、苦しい。
しかし、そのような状況であっても、大地に足を踏ん張り、両手を広げ、逆風にめげることなく、衣をなびかせて、堂々と立つ。
破れた者として、その現実をきちっと受け止める姿は、清々しい。
「爽」の字は、そういう潔さをもつ者にこそ、ふさわしい。
負けたことに、負けず！
負けたことから学び！
じっと耐え！
歩を止めず、再起を期す。
これも、常中魂だ。



負けは、マイナスではない。負けたことに、負けるな！

黄団団長　中井川　幸生

僕は、三年生最後の体育祭が終わって少しほっとしています。

なぜかというと、僕は黄団団長をやっていて、どちらかというと、この体育祭を素晴らしくするために不安だった部分があったからです。でも、体育祭が終わった今、体育祭を振り返ってみると、とても良い体育祭だったなと思います。

クラスでも、団でも優勝はできませんでしたが、団結力、一人一人の優勝に対する思い、良い意味でバカになること。これは他のクラス、他の団よりも僕たちが一番です。

今までにないような素晴らしい体育祭ができたことに誇りをもって、これからの学校生活も頑張りたいです。

青団団長　松村　晴生

今年の体育祭は、ひと味違うモノでした。特に青団の団長というすごく大切な責任を任されました。任された時は、ものすごく不安で、こんな自分にできるのか、こんな自分に団長を任せてくれたクラスのみんな、団のみんなの期待を裏切らないように一生懸命頑張り、良い意味でバカになりきることができました。

団旗を初めて持ったとき、すごく重かったです。でも、それ以上に団旗は、大きく、重く、そして、かっこ良く感じました。

クラス対抗の点でも体育祭の結果は、三年三組が優勝でした。三年目にして初めてでした。この点でも、ものすごくうれしかったです。

最高の夏でした。